

# 日中両言語における四字熟語の使用頻度に関する一考察 ——欧米文学作品の日中訳本を手掛かりに——

牛雨薇\*

四字熟語とは、漢字4文字で構成され、連結及び意味の固定度が高く、長年にわたって慣習的に使用されるフレーズである。それに関する従来の日中対照研究では、日中対応の有無に焦点を当てたものがほとんどである。また、使用頻度を中心とした研究はコーパスの生起頻度などを指標として、現代日本語及び中国語における四字熟語の使用頻度を比較したものである。しかしながら、各コーパスの性格と規模が異なるため、両者の結果を直接比較できるかどうかについてはなお検討する余地があると思われる。

本稿では、日本語と中国語の両方に翻訳された欧米文学のうち、『美女と野獣』『星の王子様』『不思議の国のアリス』という三冊の訳本を手掛かりに、日中両言語の書き言葉における四字熟語類の使用頻度について考察することにする。さらに、コーパス及び辞書類を利用して、日中訳本に出た四字熟語のそれぞれの使用頻度と出典を調べ、その結果に基づいて、とりわけ中国語の訳本にある四字熟語の特徴について考察する。

**キーワード：**日中対照研究、四字熟語、使用頻度

## 1 はじめに

本稿で扱う四字熟語は、劉(近刊)で論じられた「慣用表現」の下位分類として位置づけられ、漢字四文字で固定された慣習的に使われることばである。簡単に言えば、日本の四字熟語と中国の四字成語を指している。便宜上、以下ではこれらのことばを統一して「四字熟語」と称する。

従来の日中対照研究では、四字熟語の対応の有無に焦点を当てたものが大部を占める。しかし、中国人日本語学習者にとっては、たとえ両言語において対応のある四字熟語であっても、その日本語を上手く産出できない場合がある。筆者が修士の学生であった時、「??私と彼は犬猿の仲だ」という不自然な文を作ってしまったことがある<sup>1</sup>。そして、日本語に対応しない四字熟語は勿論、常に日本語の産出には問題が伴うだろう。例えば、ある中国人学習者は中国語の成語「一念之差<sup>2</sup>」を日本語で「一念の差」と逐語訳をしたことがあつ

\* にゅう・ゆうえい、埼玉大学大学院人文社会科学研究所博士後期課程

<sup>1</sup> 中国語の「我和他水火不容」という文を日本語で言おうとして、日本語でこの意味に対応する「犬猿の仲」を使って文を産出した。ただ、この慣用表現は話者自身のことに対してあまり使われないため、不自然な使い方であると森篤嗣先生に指摘していただいた。

<sup>2</sup> 「(成)最初のちょっとした心得違いや誤った考え(が重大な結果をもたらす)の意を表す。」(『中日辞典 第3版』:1846)

たが、これは日本語母語話者に伝わらない言い方である。このような現象について、劉（近刊）は「中国語の影響（ここでは「慣用表現」）を受けて日本語をうまく産出できない」と指摘している。

本稿では、劉（近刊）が提示する「慣用表現」のうち、最も典型とされる四字熟語を対象に考察を行いたい。中国語を母語とする学習者は書き言葉と話し言葉を問わず、四字熟語を多用する。これは中国語の語彙特質に起因するものと思われる。「日中辞典」と「中日辞典」の見出し語を比べてみると、中国の四字熟語は日本語のそれより、語彙数が倍以上ある。単に辞書に載せている四字熟語の数を比べれば、確かに中国語では生起頻度が高い。しかし、『現代漢語常用詞表（草案）』<sup>3</sup>の調査から、上位 10,000 の常用語の中で、四字成語はたったの 43 語であり、全収録語数の 0.792% を占めるとされている（楊 2015: 106-107）。このことから中国語では日常で使われない四字熟語も多く含まれているとの見方も成り立つ。

一方、日本の新聞やドラマの中に、「単刀直入」「古今東西」のような四字熟語はかなり頻出しており、中国語では日常的にはさほど使わないものも少なくない。

中国語における四字熟語の使用が日本語のそれに比べて多いかどうかを実証するために、本稿では、同じ場面に関する日中四字熟語類の使用頻度に焦点を当て、具体的には、欧米文学作品のうち、日本語と中国語に翻訳された『美女と野獣』『星の王子様』『不思議の国のアリス』の訳文を手掛かりに、書き言葉における日中四字熟語の使用頻度の多寡を明らかにする。

## 2 先行研究

ここでは、中国語の成語（四字格を中心に）と日本語の四字熟語に関する先行研究を確認しておく。

### 2.1 中国の成語について

漢字四文字で構成される語は、中国語で「四字格」と呼ばれている。その四字格には、決まった表現、即ち成語と見なされるものと、成語以外の一般的表現、例えば「幅员辽阔<sup>4</sup>」や「黄金时代<sup>5</sup>」などのような複合語がある。なお、楊（2015）は、四字成語をさらに古代成語と現代成語という二種類に分けている。

『辞海』<sup>6</sup>では、成語は熟語の一種と見なされ、歴史・文化に関わり、長年にわたって固定されたフレーズとして使われるものであると定義される。成語には 3 文字から 11 文字までのものが含まれているが、劉・秦（2007）が調査した通り、4 文字で構成されたものがほとんどであり、成語総数の 97% 以上

---

<sup>3</sup> この草案では、中国語の成語、慣用語などを含め、現代の常用漢語 56008 語が収録されている。それに基づく「2010 年中国語言生活狀況報告」では、中国語における使用頻度の高い日常用語はこの草案の一万語に安定していると提示されている。

<sup>4</sup> 領土の面積が広いという意味を表す。

<sup>5</sup> 政治、経済あるいは文化が非常に発達する時代、または人生の中で一番貴重な時期という意味を表す。

<sup>6</sup> 『辞海』とは、中華書局が作成及び出版した中国の大型総合辞書である。

を占めている。また、楊（2015）はその出典により成語を大まかに「古代」と「現代」に分けている。

成語研究については多くの蓄積がある。成語の由来や語構成に関しては、徐（2004）や、李他（2015）などが挙げられる。音韻の側面からみる成語の語構成の遷移を論じた楊（2014）や、現代常用の四字成語の語源研究について述べた曾根（2012）など多くある。

## 2.2 日本の四字熟語について

中国語の四文字の成語という概念に相当するのは、日本語では「四字熟語」として扱われる。ただし、日本語における四字熟語の範囲については諸説あり、研究者によって異なる。ここでは、国広（1985）で述べられた慣用句の特徴を参考に四字熟語の範囲を再検討しようと思う。

国広（1985）では、学習者の立場に立って、一般的な共通認識である慣用句をさらに「解釈型慣用句」（慣用句）と「表現型慣用句」（連語）に分けられるとされている。また、連結の固定度と意味の固定度の見地から、「慣用句」、「連語」と「語連結」を比較した結果、以下の表(1)のように示されている。

慣用句	連語	語連結	
+	+		連結
+			意味

（国広 1985：6）

上の表について、国広（1985：6）は「この固定度には、連語・慣用句それぞれの内部でさまざまな度合いが認められ、三者は連続体をなしているので、はっきりと区別できない場合も少なくない」と述べている。

その研究に鑑みて、四字熟語も「呉越同舟」などのように語の連結が固定化され、部分的に言い換えられなく、全体で決まった意味を持つという特徴がある。

また、土屋（2020：1）で指摘されたように「定型的表現は一定のコミュニティの中で、その集団の文化や価値観を強く反映する」という民族・文化・歴史的特性について、四字熟語もそのような特徴があると言えよう。

日本語においても、四字熟語に関する研究は盛んに行われている。四字熟語の構造や品詞性についての研究は、野村（1975）、村木（2002）、朱（2011・2013・2015）の一連の研究などがあげられる。四字熟語の使用頻度に関わる研究として、村木（2004）では、1987年から2003年までの『毎日新聞』を利用し、その中にある四字熟語の出現回数やそれぞれの出典などを調査した。使用頻度の高さにより、上位200語の中、最も多く使用されたのは和製のもの、計113語（56.5%）であり、次は中国語の故事成語に由来するもの（50語、25%）であると明らかにされた。

## 2.3 日中四字熟語に関する対照研究

日中四字熟語にかかわる対照研究では、対応の有無や形式・意味の異同、または文化や歴史の側面に注目したものがよく見られる。特に日中の同形語（書

体の異なりは考慮しない) というものを調査対象にするものが多く見られる。しかし、四字熟語の使用頻度に関する対照研究は少ないと思われる。ここでは、顧 (2017) と兪 (2018) の研究を例として簡単に紹介する。

顧 (2017) は、辞書から抽出した中日同形異義の四字成語 (55 語) を対象に、日本の『現代日本語書き言葉均衡コーパス (BCCWJ) 』(少納言) と中国の『国家語委現代汉语平衡语料库』での出現数を比較した。その結果、日本のコーパスには、調査対象とした 55 語の中の 20 語しか現れなく、その 20 語の使用頻度は総計 144 である一方、中国のコーパスには 32 語が現れ、その 32 語の使用頻度は総計 353 である。顧は、日中同形異義の四字熟語について、中国語は日本語よりもっと頻繁に使用されていると結論づけた。

また、兪 (2018) では、日本語の『漢検四字熟語辞典 (第二版) 』から「検定 5 級」と記した 614 語を対象とし、①それに対応する中国語の有無や語の類別 (成語・成語以外のもの) ②形式・意味の異同③使用頻度④参考書の分布からみるレベルの差という 4 点から、中国語の成語を効果的に習得するのに「漢検四字熟語 5 級」がいかに有効であるかを明らかにした。その使用頻度に関する調査では、日本の『朝日新聞記事データベース聞蔵 II』を利用して、調査対象とした四字熟語の生起頻度を調査し、そして日中対応の有無を確認したう え、『中国知網』(CNKI)による全国新聞・刊行誌などのデータベースを通じて、対応する中国語の用例数を統計的に比較した。

以上の二つの研究は共にコーパスでの生起頻度などを指標として、現代日本語及び中国語における四字熟語の使用頻度を比較したものである。しかしながら、各コーパスの性格と規模が異なるため、両者の結果を直接比較できるかどうかについてはなお検討する余地がある。

そこで、本稿ではコーパスとは別に、日本語と中国語の両方に翻訳された欧米文学のうち、『美女と野獣』『星の王子様』『不思議の国のアリス』という三冊の訳本を手掛かりに、日中両言語の書き言葉における四字熟語の使用頻度について考察する。

### 3 調査対象と調査方法

前節で述べたとおり、この調査では 3 つの欧米文学作品の日本語及び中国語の訳本を手がかりとして用いた。また、訳本を選択する際、同じ翻訳者や出版社にならないように注意をした。

表(2)は翻訳者及び出版社の情報を表したものである。

表 2 欧米文学作品の日中訳本について

書籍の名前	言語	翻訳者	出版社
美女と野獣	日	富永晶子	宝島社
美女与野兽	中	周思思	华东理工大学出版社
星の王子様	日	池澤夏樹	集英社
小王子	中	宋碧云	哈尔滨出版社
不思議の国のアリス	日	矢川澄子	新潮社
爱丽丝梦游仙境	中	陈伯雨・李腾龙	中国华侨出版社

日中訳本を用いる理由は二つある。一つ目は、これらの本は全年齢向けの書物であり、大人だけでなく、子供でも十分理解できるものである。難しい言葉があまり用いられておらず、日常的な言葉で書かれている。もう一つの理由は、これらの本の原文は英語またはフランス語である。それぞれの日中訳本は直接原著から翻訳されたため<sup>7</sup>、日中両言語の間で影響し合わないからである。

### 3.1 四字熟語の認定

国広(1985)と劉(近刊)を参考にし、四字熟語類は「漢字4文字で構成され、連結及び意味の固定度が高く、長年にわたって慣習的に使用されるフレーズである」と定義する。

また、四字熟語の認定は、日中四字熟語に関する辞書類を使い、その中に見出し語として収録されるものを取り出し、その後、上述した定義に基づいて、四字熟語であるかどうかを判断することにする。なぜ辞書類の使用が必要なのかについて、以下の土屋(2020)の指摘をあげながら説明する。

辞書記述は、社会的に慣習化した言語知識を一定の範囲で反映すると同時に、個人の言語知識に対しては一定の規範としての役割を担う。

(土屋 2020 : 60)

辞書記述はある言語コミュニティにおける共通している認識を一定の範囲で表している。それによって確認されるのは、そのことばの最も基本的な特徴と大まかな意味である。つまり、辞書を利用して、最も普遍的と見なされた四字熟語類を先に選び出し、続いて本稿の定義と照らし合わせて調査対象を絞るのは、十分有効かつ迅速な手段であると考えられる。

本稿では、日本の『新明解四字熟語辞典(第二版)』<sup>8</sup>(以下『新明解』と略す)と中国の『成語大詞典』<sup>9</sup>を用いる。

### 3.2 調査の手順

調査は以下三つの段階で進行する。

- (1) それぞれの日中訳本から漢字四文字で構成され、より強く結びつくことばを取り出す。
- (2) 以上のものから、『新明解』と『成語大詞典』の中に見出し語として明記されているものだけを抽出する。定義に基づいて、研究対象としての四字熟語であるかどうかを判断する。

---

<sup>7</sup> 原文の英語またはフランス語と日中両言語は、共通点がないわけではないが、全く別の言語コミュニティなので、単語レベルまたは文法レベルの違いはかなりある。特にこのような文学作品は実用文と異なり、それを翻訳する場合、原稿を忠実に訳した上、訳者の独自の理解も重要である。それについて、小林(1996)で詳しく論じられているので参照されたい。

<sup>8</sup> 『新明解』は辞書中最大の6,500語の見出しを立てて解説されるほか、各語の出典も確実に記載されている。

<sup>9</sup> 『成語大詞典』は古代成語だけでなく、現代成語も含まれ、約18,000項目が収録されている。『新明解』と同様に、出典が明記されている。

- (3) 上述した日中四字熟語の出現数をそれぞれ加算し、使用頻度とする。それぞれの日中訳本における四字熟語の使用頻度を比較することを通して、中国語における四字熟語の使用が日本語のそれに比べて多いかどうかを明らかにする。

#### 4 調査結果

3節に述べた手順を踏まえた上での調査結果を以下に示す。

日本語版の『美女と野獣』の中に現れた四字熟語類は5語あり、『星の王子さま』は0語、『不思議の国のアリス』は9語、異なり語数は8である。以下、表(3)に示す。

表3 日本語訳本にある四字熟語（異なり語）

書籍	四字熟語
『美女と野獣』	一生懸命、一目瞭然、紆余曲折、絢爛豪華、名所旧跡
『星の王子さま』	
『不思議の国のアリス』	以心伝心、無我夢中、無味乾燥、簡單明瞭、興味津々、思案投首、四方八方、馬鹿正直

それに対して、中国語版の『美女与野兽（美女と野獣）』は109語、異なり語は94語、『小王子（星の王子さま）』は51語、異なり語は41語、『爱丽丝梦游仙境（不思議の国のアリス）』は94語、異なり語は52語である。詳しくは、表(4)に示す。

表4 中国語訳本にある四字熟語（異なり語）

書籍	四字熟語
美女与野兽	黯然失色、百发百中、饱经沧桑、宾至如归、博览群书、不出所料、不假思索、不由自主、不约而同、畅通无阻、超凡脱俗、嗤之以鼻、充耳不闻、大错特错、大发雷霆、大开眼界、大展身手、担惊受怕、当机立断、荡然无存、得意洋洋、喋喋不休、耳目一新、富丽堂皇、哄堂大笑、胡思乱想、胡言乱语、机不可失、家喻户晓、戛然而止、焦躁不安、竭尽全力、精美绝伦、聚精会神、孔武有力、哭笑不得、狂风暴雨、岿然不动、泪如泉涌、踉踉跄跄、寥寥无几、妙不可言、命中注定、难以置信、怒不可遏、怒气冲冲、疲惫不堪、齐心协力、千篇一律、窃窃私语、忍无可忍、日复一日、如释重负、神魂颠倒、生机勃勃、始料未及、事不宜迟、适可而止、水落石出、随心所欲、铁石心肠、突如其来、推波助澜、脱口而出、

	微乎其微、无边无际、无能为力、无所畏惧、闲言碎语、显而易见、相形见绌、小心翼翼、心不在焉、心甘情愿、形影不离、栩栩如生、言不由衷、扬扬得意、一成不变、一如既往、一言不发、衣衫褴褛、引人注目、与众不同、欲罢不能、晕头转向、沾沾自喜、真心实意、争分夺秒、直截了当、转瞬即逝、自欺欺人、自言自语、自作自受
小王子	黯然无光, 彬彬有礼, 不可理喻, 朝生暮死, 大吃一惊, 独一无二, 愤愤不平, 合情合理, 绞尽脑汁, 井井有条, 刻不容缓, 宽宏大量, 牢不可破, 马马虎虎, 满面春风, 漫不经心, 漫无目的, 面红耳赤, 迫不及待, 泣不成声, 深信不疑, 生死攸关, 十全十美, 是非不分, 威风凛凛, 无关紧要, 无言以对, 无足轻重, 毋庸置疑, 小心翼翼, 心灰意冷, 心如刀割, 一本正经, 一动不动, 一望无际, 一言不发, 依依不舍, 悠哉游哉, 游手好闲, 长途跋涉, 自言自语
爱丽丝梦游仙境	笨手笨脚、毕恭毕敬、大吃一惊、大发雷霆、得意扬扬、行色匆匆、合情合理、横七竖八、胡说八道、恍然大悟、回心转意、昏昏欲睡、戛然而止、尖酸刻薄、焦躁不安、接二连三、筋疲力尽、惊慌失措、狼狈不堪、漫不经心、莫名其妙、喃喃自语、弄虚作假、品头论足、气喘吁吁、千真万确、日日夜夜、如释重负、若有所思、上蹿下跳、声嘶力竭、四面八方、提心吊胆、头晕目眩、头晕眼花、突如其来、无精打采、无可否认、无论如何、稀奇古怪、小心翼翼、一本正经、一无所知、一言不发、一针见血、异口同声、语无伦次、约定俗成、晕头转向、正大光明、自言自语、自作自受

日中訳本における四字熟語の使用頻度を表(5)にまとめて比較する。結果は一目瞭然で、すべての作品で中国語のほうが多いことが明らかになった。

表 5 日中四字熟語の使用頻度

書籍	言語	使用頻度
美女と野獣 (美女与野兽)	日	5
	中	109
星の王子様 (小王子)	日	0
	中	51
不思議の国のアリス (爱丽丝梦游仙境)	日	9
	中	94

表(5)から、中国語の訳本から抽出した四字熟語類の数は計 254 語であり、それに対して、日本語の訳本から抽出したのは 14 語のみである。つまり、今回の調査では、同一場面における四字熟語の使用は、中国語のほうが日本語より圧倒的に多いということが明らかになった。この結果は従来の先行研究と軌を一にする。

また、李他 (2015) は、語構成、音韻及び文化的な側面から、中国語の四字の成語を多用する現象について分析した。要約すると、単なる四つの文字で様々な文法関係が表せ、中国のトーンの独特なリズムや美しさが反映でき、さらにその意味を効率的に伝達、理解及び記憶できるなどのメリットがあるのが原因として言及されている。

本稿でも示したように、日本語の四字熟語の頻度に比べて、中国語のそれは圧倒的に多い。こうした言語の特質に起因して、中国語を母語とする学習者は中国の四字熟語を多用する可能性が高いと言える。筆者が 2 年前、日本で暮らしている中国人の子供に日本語を教えた時、その子が日本語の作文の中で中国語に由来する四字熟語を多用していることに気が付いた。これも、中国語に影響されて日本語がうまく産出できない例だろう。

中国人学習者が日常的によく使われる中国語の四字熟語に影響され、日本語を上手く産出できない現象はしばしば見られる。たとえ日本語のレベルが上級になっても、中国の四字熟語あるいは他の慣用表現を日本語で何というのかについて困ることがある。そのモヤモヤ感に関して、劉の近刊では「ニュアンスを伝えようと思っても適切な日本語を知らず (見当たらない場合も含む)、直訳しても意味が通じない」と指摘している。

## 5 考察

前節では、欧米文学作品の日中訳本を調査の手がかりとして用い、そこに生じた四字熟語類の数、すなわち同一場面に関する日中四字熟語類の言葉の使用頻度について明らかにした。そして、中国語における四字熟語類の使用頻度は日本語より高いことが明らかになった。

ただし、前節であげた四字熟語は、両言語において日常的な語彙であるかどうかについて、さらに調査する必要があるため、本節では、それらの日中四字熟語を考察の対象とし、コーパスを利用してそれぞれの使用頻度を調べる。そして、中国語の訳本にある四字熟語の特徴について、使用頻度及び出典の側面から考察する。

### 5.1 コーパスを利用した四字熟語の使用頻度調査

本節では、日本語及び中国語の訳本から抽出した四字熟語を対象とし、コーパスに基づいて、それぞれの使用頻度を調査する。

ここでは、日本の「現代日本語書き言葉均衡コーパス (BCCWJ)」と中国の「北京大学現代漢語コーパス (CCL)」を利用する。BCCWJ は、現代日本語の書き言葉の全体像を把握するために構築されたコーパスであり、各ジャンルについて無作為にサンプルを抽出した約 1 億 430 万語が収録されている。



また、CCL は中国北京大学言語学研究センターが開発した大規模なコーパスであり、現代中国語約 5 億の文字が収録されている<sup>10</sup>。

検索方法は以下の通りである。

日本語の四字熟語に関しては、BCCWJ の「少納言」を利用し、検索文字列の空欄に四文字の通りに入力し、すべてのジャンルで検索することにした。一方、中国語の四字熟語に関しては、CCL の「普通查询（訳：一般検索）」というパターンで、四文字をそのまま入力して検索することにしたが、その検索の範囲は話し言葉以外の部分である。また、四字熟語の異形態も今回の調査対象から除外した。ここでいう四字熟語の異形態とは、その語自身の意味及び構造が変わらない条件下で、一つまたは二つの文字表記が異なることを指している。例えば、日本語の「興味津々」は「興味津津」と書いたり、中国語の「莫名其妙」の「名」が「明」になったり、「其」が「奇」になったりすることなど、訳本にある四字熟語と異なる表記を、今回の調査では対象としない。

BCCWJ を利用した日本語の四字熟語について、それぞれの生起回数、すなわち使用頻度を表(6)に示す。

表 6 BCCWJ を利用した日本語四字熟語の使用頻度

調査対象	頻度
一生懸命	2169
一目瞭然	269
興味津々	182
無我夢中	126
紆余曲折	122
四方八方	104
無味乾燥	63
以心伝心	49
名所旧跡	36
絢爛豪華	25
馬鹿正直	23
簡單明瞭	20
思案投首	2

一方、表(4)に載せている中国語の四字熟語（異なり語）である 170 語について、現代中国語では日常的な語彙かどうか、また使用頻度の特徴に関して究明するために、まず CCL を用いて各四字熟語の使用頻度を調べる<sup>11</sup>。

ここでは、表(7)と(8)のように六つの段階に分けて、それぞれの段階に含まれる四字熟語の語数とそれらの語の使用頻度に関する度数分布を示す。

<sup>10</sup> ただし、CCL にはインタビューや会話などの文字データも含まれるため、使用頻度を調べる場合、話し言葉に関しては調査範囲から除く。

<sup>11</sup> 内訳については稿末添付資料 1 を参照されたい。

表7 中国語訳本にある四字熟語の CCL における度数分布表

階級	語数	累積度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
$x \geq 1000$	32	32	18.82%	18.82%
$1000 > x \geq 500$	47	79	27.65%	46.47%
$500 > x \geq 100$	80	159	47.06%	93.53%
$100 > x \geq 50$	6	165	3.53%	97.06%
$50 > x \geq 10$	4	169	2.35%	99.41%
$x < 10$	1	170	0.59%	100%
総計	170		100%	

表(7)からは、中国語訳本にある四字熟語 170 語のうち、CCL での生起回数が 1000 回以上 ( $x \geq 1000$ ) のグループは、32 語であることが分かる。このグループは 170 語のうちの 18.82% を占めている。そして、CCL での生起回数が 500 回以上 1000 回未満 ( $1000 > x \geq 500$ ) のグループは中国語訳本にある四字熟語 170 語のうち 47 語である。このグループは 170 語のうちの 27.65% を占めており、500 回以上の 2 つのグループを合わせると 46.47% になる。

表8 中国語訳本にある四字熟語の CCL における使用頻度の度数分布表

階級	使用頻度	累積度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
$x \geq 1000$	59,467	59,467	51.97%	51.97%
$1000 > x \geq 500$	31,420	90,887	27.46%	79.43%
$500 > x \geq 100$	22,958	113,845	20.06%	99.49%
$100 > x \geq 50$	421	114,266	0.37%	99.85%
$50 > x \geq 10$	158	114,424	0.14%	99.99%
$x < 10$	9	114,433	*0.01%	100%
総計	114,433		100%	

(注：①「x」は使用頻度の数を表す

②「階級」：度数を集計するための区間を表す。ここでは、使用頻度を 1000 回以上、500 から 1000 まで、50 から 100 まで、10 から 50 までと 10 回以下という六つの区間に分けている。

③「累積度数」：その階級までの度数の全ての和（累積和）のことである。例えば、表 8 において、「 $500 > x \geq 100$ 」という階級までの累積度は、「 $x \geq 1000$ 」階級の使用頻度 (59467) + 「 $1000 > x \geq 500$ 」の使用頻度 (31420) + 「 $500 > x \geq 100$ 」の使用頻度 (22958) = 113845 回である。

④「相対度数」：各階級の度数が全体に占める割合のことである。例えば、表 7 において、「 $x \geq 1000$ 」という階級の四字熟語は 32 語であり、総数 (170 語) の 18.82% を占めている。

⑥「累積相対度数」：特定の階級までにあるデータの割合を表す。累積度をデータ全体数で割ることで計算できる。例えば、③「 $500 > x \geq 100$ 」という階級の累積相対度は、③で計算したその階級の累積度数 (113845) ÷ 使用頻度の総数 (114433) = 99.49% である。

⑦「\*」を記した部分は「丸め誤差」である。丸め誤差とは、四捨五入や切り上げ・切り捨てにより生じる数値計算上の誤差のことである。)

表(8)からは、中国語訳本にある四字熟語 170 語のうち、CCL での生起回数が 1000 回以上 ( $x \geq 1000$ ) のグループの 32 語の合計の使用頻度が 59,467 回であることが分かる。このグループは 170 語の合計の使用頻度 114,433 回のうちの 51.97%を占めている。

調査対象とした四字熟語の使用頻度において、一番高いのは 5411 回の「无论如何」であり、最も低いのは 9 回だけの「朝生暮死」である。上の二つの表からみると、四字熟語の使用はかなり散らばっている。ただし、特徴として、使用頻度が 100 回以上 (100 を含める) の四字熟語は 159 語であり、全体の 93.53%を占めている。その階級までの使用頻度は 113,845 回であり、総数の 99.49%を占めている。つまり、今回使われた中国語の訳本にある四字熟語は、日常的によく見たり聞いたりまたは使用したりすることばがほとんどである。さらに、使用頻度が 1000 回以上 (1000 を含める) の四字熟語は 32 語、調査対象全体の 18.82%を占め、数が非常に多いというわけではないが、それに応じた使用頻度の累積相対度数は総数の半分以上を占めており、これらの四字熟語が現代中国語においてかなり使用されていることを反映している。

次の 5.2 節では、使用頻度が 100 回以上 (100 回を含める) の四字熟語の特徴について、出典の側面から述べる。

## 5.2 中国語の常用四字四字熟語の特徴

前節において、BCCWJ と CCL を用い、四字熟語の使用頻度について調べた。便宜上、そこで示した四字熟語の使用頻度が 1000 回以上のものは H レベルと、使用頻度が 100 から 1000 までのものは M レベルと命名する。これらの常用四字熟語が古代から由来するものかそれとも現代の造語かを、辞書類によって確認する。

その結果、H レベルの中に、古代から由来するものは 24 語、現代の造語は 8 語ある。また、M レベルの中には、古代の四字熟語が 107 語、現代の四字熟語が 21 語である。つまり、この調査をとおして、古代の四字熟語は現代のそれより多いことが明らかになった。その内訳は、以下表(9)に示すとおりである。

表 9 出典による中国語四字熟語の分類表

H レベル	古代	无论如何, 莫名其妙, 大吃一惊, 小心翼翼, 四面八方, 显而易见, 与众不同, 自言自语, 不约而同, 竭尽全力, 不由自主, 突如其来, 家喻户晓, 独一无二, 一无所知, 无能为力, 刻不容缓, 迫不及待, 栩栩如生, 一言不发, 直截了当, 耳目一新, 聚精会神, 随心所欲。
	現代	引人注目, 一如既往, 弄虚作假, 齐心协力, 一动不动, 难以置信, 日日夜夜, 生机勃勃。
M レベル	古代	恍然大悟, 心甘情愿, 胡说八道, 漫不经心, 若有所思, 无关紧要, 气喘吁吁, 心不在焉, 接二连三, 异口同声, 彬彬有礼, 提心吊胆, 脱口而出, 寥寥无几, 真心实意, 忍无可忍, 惊慌失措, 推波助澜, 一成不变, 富丽堂皇, 一望无际, 胡思乱想, 荡然无存, 泣不成声,

	<p>长途跋涉，微乎其微，喃喃自语，日复一日，哭笑不得，无足轻重，千真万确，不假思索，依依不舍，水落石出，当机立断，深信不疑，怒气冲冲，无精打采，喋喋不休，如释重负，千篇一律，沾沾自喜，十全十美，大开眼界，得意洋洋，井井有条，无边无际，狂风暴雨，愤愤不平，面红耳赤，威风凛凛，自欺欺人，大发雷霆，精疲力竭，命中注定，窃窃私语，怒不可遏，嗤之以鼻，黯然失色，无所畏惧，马马虎虎，无言以对，胡言乱语，声嘶力竭，约定俗成，形影不离，头晕目眩，毕恭毕敬，衣衫褴褛，神魂颠倒，稀奇古怪，回心转意，心灰意冷，戛然而止，游手好闲，哄堂大笑，担惊受怕，妙不可言，不出所料，宽宏大量，踉踉跄跄，满面春风，语无伦次，横七竖八，大错特错，昏昏欲睡，相形见绌，欲罢不能，狼狈不堪，适可而止，博览群书，铁石心肠，充耳不闻，行色匆匆，牢不可破，机不可失，自作自受，宾至如归，正大光明，泪如泉涌，笨手笨脚，岿然不动，不可理喻，精妙绝伦，百发百中，头晕眼花，言不由衷，尖酸刻薄，事不宜迟，闲言碎语。</p>
現代	<p>疲惫不堪，合情合理，畅通无阻，一针见血，绞尽脑汁，毋庸置疑，争分夺秒，晕头转向，一本正经，生死攸关，转瞬即逝，无可否认，漫无目的，始料未及，焦躁不安，饱经沧桑，超凡脱俗。</p>

以上から、中国語の訳本から抽出した四字熟語においては、以下3点の特徴が導かれる。

- a) 日常的によく使われる四字熟語がほとんどで、調査対象とした語の全体の93.5%を占める。
- b) この93.5%の四字熟語は、コーパスにおける生起回数（使用頻度）が計113,845回であり、生起回数（使用頻度）全体の99.49%に達し、これらの四字熟語は中国語において常に使われていることが推測できる。
- c) この常用の四字熟語の中で古代から由来するものは現代のものより多い。

## 6 おわりに

本稿では、欧米文学作品の日中訳本を手がかりに、日中両言語における四字熟語の使用頻度について調査した。その結果、日本語の訳本には総計14語、中国語の訳本には総計255語が出現していた。つまり、中国語における四字熟

語の使用は日本語のそれより圧倒的に多いことが確認された。さらに、辞書類とコーパスを用い、使用頻度及び出典といった側面から中国語訳本にある常用（H・M レベル）の四字熟語の特徴を明らかにした。

ただし、本研究にはいくつかの問題点があげられる。まず、今回使われた日中訳本の原著は英語あるいはフランス語であるため、それらの原著から訳本にもたらされた影響については考慮していない。また、日中両言語において日常的に使われる四字熟語の使用頻度についての調査とはいえ、今回は書き言葉に関する調査が中心となり、話し言葉に関する日中四字熟語の使用頻度はまだ調査されていない。それを今後の課題とする。

その他の今後の課題としては、中国語の四字熟語及び他の慣用表現（ex.慣用語、諺語）が学習者の日本語の産出にもたらす影響を考察しようと考えている。母語干渉の視点から、どのような中国語慣用表現が中国人日本語学習者の産出に影響しやすいか、また訳しにくい（訳せない）慣用表現はどのような特徴を持つのか、そしてどのようなストラテジーを用いて日本語で自然に産出できるのかについて究明し、日本語教育に提案したいと考えている。

### 謝辞

本研究を進めるに当たり、指導教官の劉志偉先生からは多大な助言を賜りました。厚く感謝を申し上げます。同じゼミの松本匡史さんにはこの原稿を修正していただき、誠にありがとうございました。また、2020年度ロータリー米山記念奨学金のご支援を頂き、研究に専念することができました。ここに記して謝意を申し上げます。

添付資料1 コーパスを利用した中国語四字熟語の使用頻度

中国語四字熟語	実際の出現数	対象外(除外)	話し言葉(除外)	本稿で扱う使用頻度数
无论如何	5444	23	10	5411
引人注目	5373	9	9	5355
一如既往	3146	1	0	3145
莫名其妙	2653	4	13	2636
大吃一惊	2384	5	5	2374
小心翼翼	2315	2	3	2310
四面八方	2285	16	1	2268
显而易见	2057	5	2	2050
与众不同	1915	26	8	1881
自言自语	1886	11	2	1873
弄虚作假	1836	10	0	1826
不约而同	1828	3	0	1825
竭尽全力	1722	4	1	1717
齐心协力	1639	7	0	1632
不由自主	1630	8	3	1619
一动不动	1567	0	1	1566
突如其来	1553	4	2	1547
家喻户晓	1552	3	6	1543
独一无二	1455	20	3	1432
难以置信	1438	0	2	1436
一无所知	1374	7	6	1361
无能为力	1340	8	3	1329
刻不容缓	1278	4	0	1274
迫不及待	1186	4	0	1182
日日夜夜	1159	6	2	1151
栩栩如生	1137	5	1	1131
一言不发	1134	3	1	1130
直截了当	1124	37	2	1085
耳目一新	1118	1	2	1115

生机勃勃	1117	0	1	1116
聚精会神	1103	9	1	1093
随心所欲	1063	9	0	1054
恍然大悟	971	4	2	965
心甘情愿	960	4	7	949
胡说八道	948	4	8	936
漫不经心	925	6	3	916
若有所思	881	2	1	878
无关紧要	857	28	0	829
气喘吁吁	855	2	1	852
心不在焉	832	4	0	828
接二连三	819	7	2	810
异口同声	788	2	0	786
彬彬有礼	764	3	1	760
提心吊胆	752	10	0	742
脱口而出	744	5	2	737
疲惫不堪	737	2	0	735
寥寥无几	735	2	2	731
真心实意	708	3	1	704
忍无可忍	702	3	2	697
惊慌失措	699	6	1	692
推波助澜	691	2	0	689
合情合理	689	5	1	683
一成不变	685	4	3	678
富丽堂皇	666	5	0	661
畅通无阻	662	3	1	658
一望无际	655	7	0	648
胡思乱想	651	7	2	642
一针见血	650	3	4	643
荡然无存	630	1	2	627
泣不成声	618	3	0	615
长途跋涉	609	9	2	598

微乎其微	604	2	0	602
绞尽脑汁	593	3	0	590
喃喃自语	585	0	0	585
日复一日	574	2	1	571
哭笑不得	557	3	6	548
无足轻重	557	12	1	544
千真万确	556	2	1	553
不假思索	552	5	0	547
依依不舍	549	2	0	547
水落石出	541	5	0	536
毋庸置疑	538	0	0	538
当机立断	519	4	0	515
深信不疑	519	1	0	518
怒气冲冲	518	1	1	516
无精打采	514	10	0	504
喋喋不休	513	3	0	510
如释重负	512	2	3	507
千篇一律	504	2	2	500
沾沾自喜	501	6	0	495
十全十美	488	3	4	481
大开眼界	476	0	0	476
得意洋洋	472	4	0	468
井井有条	472	5	2	465
无边无际	464	14	0	450
狂风暴雨	433	2	0	431
愤愤不平	424	2	0	422
面红耳赤	420	6	1	413
威风凛凛	413	2	2	409
自欺欺人	412	3	1	408
大发雷霆	408	2	0	406
筋疲力尽	408	1	0	407
命中注定	392	13	3	376



窃窃私语	390	1	0	389
怒不可遏	386	3	0	383
嗤之以鼻	362	2	1	359
黯然失色	361	2	0	359
争分夺秒	361	2	1	358
无所畏惧	358	13	2	343
马马虎虎	356	3	2	351
无言以对	355	0	0	355
胡言乱语	354	12	0	342
声嘶力竭	353	1	1	351
约定俗成	352	3	1	348
形影不离	347	5	1	341
头晕目眩	345	1	0	344
毕恭毕敬	343	1	0	342
衣衫褴褛	338	2	0	336
晕头转向	327	4	0	323
神魂颠倒	324	5	0	319
一本正经	323	4	4	315
稀奇古怪	319	0	0	319
回心转意	314	2	0	312
心灰意冷	313	2	2	309
戛然而止	299	3	1	295
游手好闲	298	9	1	288
生死攸关	297	1	0	296
哄堂大笑	293	4	0	289
担惊受怕	288	3	2	283
妙不可言	280	2	2	276
不出所料	278	7	0	271
宽宏大量	278	6	0	272
转瞬即逝	274	5	1	268
踉踉跄跄	273	1	0	272
满面春风	269	4	0	265

语无伦次	268	2	1	265
横七竖八	260	4	0	256
大错特错	256	3	1	252
昏昏欲睡	252	1	0	251
相形见绌	251	3	1	247
欲罢不能	244	3	0	241
无可否认	238	1	0	237
狼狈不堪	235	4	1	230
适可而止	232	2	0	230
博览群书	231	4	2	225
漫无目的	226	0	0	226
始料未及	223	0	1	222
焦躁不安	220	0	1	219
铁石心肠	217	6	0	211
饱经沧桑	216	1	0	215
充耳不闻	215	4	0	211
行色匆匆	211	2	0	209
超凡脱俗	195	0	0	195
牢不可破	186	4	0	182
机不可失	182	3	0	179
自作自受	175	1	0	174
宾至如归	172	4	0	168
正大光明	168	7	0	161
泪如泉涌	167	1	0	166
笨手笨脚	164	0	1	163
岿然不动	164	1	4	159
不可理喻	152	2	0	150
精美绝伦	152	0	0	152
百发百中	146	7	0	139
头晕眼花	142	2	0	140
言不由衷	142	3	0	139
尖酸刻薄	138	8	0	130

事不宜迟	124	2	0	122
闲言碎语	114	2	0	112
心如刀割	96	6	0	90
品头论足	84	4	1	79
大展身手	80	0	0	80
悠哉游哉	63	1	0	62
得意扬扬	60	2	0	58
黯然无光	52	0	0	52
是非不分	48	2	0	46
扬扬得意	42	1	0	41
孔武有力	41	1	0	40
上蹿下跳	31	0	0	31
朝生暮死	13	4	0	9

## 参考文献

- 今井俊彦 (2014) 「ことわざ・慣用句」沖森卓也・蘇紅編『日本語ライブラリー 中国語と日本語』pp. 122-129, 朝倉出版
- 北澤尚・李琳 (2019) 「四字熟語の連体修飾用法における「～ナ」「～ノ」の使用実態」『東京学芸大学紀要 人文社会科学系 I』70, pp. 45-81, 東京学芸大学学術情報委員会出版
- 国広哲弥 (1985) 「慣用句論」『日本語学』1(4), pp. 4-14, 明治書院
- 顾诗怡 (2017) 「中日同形异义四字成语使用情况调查」『教育教学论坛』38, pp. 78-79
- 小林繁吉 (2012) 「翻訳文学について」『八戸工業大学紀要』31, pp. 55-66
- 朱京偉 (2011) 「関学資料の四字漢語についての考察—語構成パターンと語基の性質を中心に—」『国立国語研究所論集』2, pp. 165-184
- 朱京偉 (2013) 「在华宣教師の洋学資料に見える四字語—蘭学資料の四字漢語との対照を兼ねて—」『国立国語研究所論集』6, pp. 245-271
- 朱京偉 (2015) 「四字漢語の語構成パターンの変遷」『日本語の研究』11(2), pp. 50-67, 日本語学会
- 徐盛桓 (2004) 「成語的生成」『暨南大学华文学院学报』1, pp. 42-51
- 砂岡和子・羅鳳珠・王雷・姜柄生・松崎実夏 (2012) 「漢字四字成語の受容とその延命」国立国語研究所第2回コーパス本語学ワークショップ, pp. 275-284
- 曾根博隆 (2012) 「中国語常用四字熟語について」『カルチャー：明治学院大学教養教育センター紀要』6(1), pp. 81-90
- 土屋智行 (2020) 『ひつじ研究叢書 164 言語と慣習性——ことわざ・慣用表現とその拡張用法の実態——』ひつじ書房
- 野村雅紹 (1975) 「四字漢語の構造」『電子計算機による国語研究VII』国立国語研究所出版
- 藤野安紀子 (2012) 「成語研究と比較した四字格研究の特徴」『中国文学研究』38, pp. 43-54
- 藤野安紀子 (2013) 「中国語四字格の歴史と研究」『早稲田大学大学院文学研究科紀要 (第2分冊)』59, pp. 207-219
- 村木新次郎 (2002) 「四字熟語の品詞性を問う」玉村文郎編『日本語と言語学』, pp. 123-134, 明治書院
- 村木新次郎 (2004) 「現代日本語の中の四字熟語」北京大学日本文化研究所編『日本語言文化研究』5, 学苑出版社出版
- 兪鳴蒙 (2018) 「日中四字熟語・成語に関する調査研究」『撰大人文学』25, pp. 117-136, 撰南大学出版
- 楊華 (2015) 「中国語教育における常用四字格の学習—日本語の四字漢語との対照を通して—」『コミュニカーレ』4, pp. 101-120, 同志社大学グローバル・コミュニケーション学会出版
- 杨帅 (2014) 「从韵律角度探析四字格成语的结构变异」『湖北师范学院学报 (哲学社会科学版)』34(2), pp. 51-54
- 李福强・李颂彧 (2015) 「浅析汉语四字格成语的六种固定格式」『扬州教育学院学报』33(1), pp. 41-44

- 刘长征・秦鹏（2007）「基于中国主流报纸动态流通语料库(DCC)的成语使用情况调查」『语言文学应用』2007年第3期, pp. 78-86
- 劉志偉（近刊）「第11章 对照研究（日中）」庵功雄編『学習者の気持ち  
がわかる日本語教育入門』頁数未定

### 辞書類

- 『新明解四字熟語辞典 第二版』（2013）三省堂出版
- 『成语大词典』（2013）商务印书馆出版

### コーパス

- 現代日本語書き言葉均衡コーパス（BCCWJ）：  
[https://pj.ninjal.ac.jp/corpus\\_center/bccwj/](https://pj.ninjal.ac.jp/corpus_center/bccwj/)
- CCL 语料库检索系统（CCL）：[http://ccl.pku.edu.cn:8080/ccl\\_corpus/](http://ccl.pku.edu.cn:8080/ccl_corpus/)

### その他

- 「2010年中国語言生活狀況報告」：  
<http://old.moe.gov.cn/publicfiles/business/htmlfiles/moe/s237/201202/130351.html>

# **Investigation into the Frequency of Using Four-Character Idioms in Japanese and Chinese: Using the Japanese and Chinese Translations of Literary Fictions**

NIU Yuwei

Four-character idioms refer to the four-character phrases that have been used for a long time with fixed sequence and meaning of words. So far, the Chinese and Japanese comparative studies on four-character idioms have mostly focused on if there are any consistent connections between Chinese and Japanese. The number of studies which are centering on usage frequency is not only small, but also it is based on the number of occurrences in a corpus as an indicator to compare the use of four-character idioms in modern Japanese and modern Chinese. But, the scale and characteristics of corpuses are different, and sometimes it is impossible to compare search results directly.

Therefore, in this research, I used the Chinese and Japanese translation versions of the three well-known novels "Beauty and the Beast", "The Little Prince" and "Alice's Adventures in Wonderland" to study the usage frequency of four-character idioms in Chinese and Japanese written languages. And then, the dictionary and corpus are used to investigate the origin and usage frequency of these four-character idioms which are used in the book. Finally, based on the results above, the characteristics of the four-character idioms which are used in the Chinese translation version will be analyzed and explained.

**Keywords:** The Study of Japanese Chinese Contrastive Linguistics, Four-Character Idioms, Frequency